

新市町村の横顔

筑波町



1. 沿革

この町は筑波郡の北部に位置し東は新治郡八郷町及び新治村、西は下妻市及び明野町、南は大穂町、北は真壁郡真壁町にそれぞれ隣接しており、中央部に桜川、西部に小貝川が下妻市との境界に何れも南北に流れ、東北部には町の象徴たる標高 876m の筑波山がそびえ、その山麓及び桜川流域一帯は地味肥よくて、米麦の産地として知られている。

役場の所在地北条は、古い名を多気の里と呼ばれ、元豊元年堀田主税の知行に属し、十一年土屋氏の領有となり、明治の代に至るまで変更なかつたが明治3年若狭県5年新治県、8年茨城県の管轄に変わって今日に至つた。

合併については幾多の余曲折があつたが、昭和30年2月1日北条、筑波、小田、田井、田水山の2町3カ村を、31年9月には作岡村を、32年7月には菅間村を合併して、東西11km、南北12.5km、面積71.1km²、人口25,905人、世帯数4,749戸(33.4.30現在)の大筑波町が誕生し、商工業の振興、農産物消費地との経済ブロックの確立、桜川流域及び山麓地帯の土地改良、山林資源の利用及び開発、又観光施設の整備拡充による観光都市への躍進等、多角的な町づくりに専念しており、今後の発展は大いに期待される。

2. 産 業

まず農業面は農家戸数3,225戸、農家人口18,479人、耕地面積2,958町(田1,680町、畑1,096町、樹園地182町)(昭和33年2月冬期農業基本調査)で主要農産物は水稲43,000石、陸稲900石、大麦22,000石、小麦7,000石結球白菜87,000kg、甘藷846,700kg、すいか128,000kg(32年中)等で特に水稲は戦前は北条米と呼ばれ、消費地から大いに歓迎され、その品質を誇つていた。

近時農業経営の改善に着目し多角経営への転換を計りつつあり、町も桜川東部を第一地域、同西部を第二地域として新農山漁村建設計画を進めており、筑波より小田に至る山間地帯、桜川流域の平地地帯旧作岡の台場地帯とそれぞれの立地条件を考慮して、しいたけ、みかん、柿、梨、栗等の特用作物を奨励して農家の経常的収入の増加を図つていく。

又単作田地帯の解消をめざし、それと併行して、畑地かんがい、交換分合を全地域におし進め農家の生産力増強に大きな役割を果たしている。

次に畜産面を見ると乳牛103頭、役牛1,533頭、馬565頭、山羊431頭、豚1,750頭、にわとり19,115羽(昭和33

年2月冬期農業基本調査)を飼育しており、なかでも乳牛及び豚は飼育組合を作りその飼育頭数増加と品質改善に努力している。

特に農事研究会は町の連合体でそれぞれ専門部門を担当し活発な研究活動を続けていることは注目すべきである。またおもな農機具の普及状況を見ると、電動機1,011台、石油発動機397台、ハンドトラックター57台、動力耕うん機、116台、動力脱穀機1,223台、足踏脱穀機1,065台、動力穀すり機658台、動力製粉機325台、動力製米機641台、動力噴霧機83台、人力用噴霧機2,350台、動力製糞機232台、足踏製糞機1,175台、畜力カルチベーター283台、畜力碎土機185台、畜力すき2,686台に達し年を追つて農業経営が機械、畜力化に移つて来た。

次に商工業面を見ると法人及び常用労働者を有する個人商店数34、従業者173名、商品販売額408,105千円、常備労働者のない個人商店数378、従業者数656名(31年7月1日商業調査)販売価格23,535千円(6月)である。

工業面のおもなるものはスレイト瓦、座敷蓐、御影石等がある。

次に観光面を見ると名峰筑波にケーブルカーが復活してから登山者が急増し行楽シーズンには列車、バス等により日帰り客や泊り客で連日にぎわつている。

3. 教育文化

この町には小学校10(分校3)中学校7(組合立1)があり、小学児童数3,572名(男1,834名、女1,738名)中学生徒数1,881名(男859名、女1,022名)であるが外に生徒367名(全日制289名定時制78名)の土浦二高北条分校があるが、同校を3カ年計画により施設を充実し(年額1,000万円)県立に昇格せしめ筑波地帯の教育向上に貢献せんとしている。

社会教育方面においては新生筑波町の育成のため、男女青年団、婦人会、青年学級などを通じて新町建設の理想の普及をはじめ教育文化の向上及び生活改善に活発な運動を続けている。又懇案の国民健康保険を33年4月から全町実施するとともに、組合立であつた筑波地方国保病院を町営に切替えた。なお処置児66名(男37、女29)の保育所の経営、全国にさがかけて80才以上の老令者(253名)に32年度より老令者年金を交付する等厚生方面にも力を注いでいる。

この名所古跡及び文化財は紫峰筑波を筆頭にその名もゆかしい桜川、神皇正統記とともに史上余りにも有名な小田城跡、八万塚の古墳、筑波山神社所蔵の大刀銘吉宗日本武尊が発見したと称され、四時清れつな清水をわき出させている垂河、古今の和歌で知られた男女川、周囲200mの堤上に筑波山を背景に関東一を誇つて咲き競う大池の桜等々枚挙にいとまがない。又著名な神社仏閣としては筑波山中腹と春秋2回遷座する筑波山神社、古くから養蚕家に信仰されている日本一蚕影山神社あるいは泉の子育観音と称される慶童寺などが知られている。

昭和33年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及び財産収入	分担金及び負担金	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	町債	合計		
50,643,300	31,216,000	3,000	420,000	620,000	3,607,305	2,657,000	1,000	100	300,000	2,847,800	100	92,315,605			
歳出	議会費	役場費	警消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
2,409,700	19,924,307	3,645,046	3,636,000	25,127,100	7,544,181	1,992,660	11,717,724	1,705,000	351,660	473,050	1,785,442	12,318,364	685,371	92,315,605	